

# 報道の日本語

鼠徑部のヘルニア手術で五、六日の入院、ベッドに縛りつけられた。テレビをこんなにいっぱいみたのは初めてか。

そこから聞こえる日本語、なんだか杜撰な感を拭えない。コロナ禍、自宅で料理をする人がふえていられるらしい。さかんに料理番組をやっている。「こだわり」「こだわる」が頻出して、閉口。ニュースをみていると、例えば日本学術会議問題では、「きちんとした説明が求められる」がやけに多い。「更なる追及」とあったり、「より一層の究明」であったり、私はまず使いそうにない。いろいろ述べて、最後に「いずれにせよ」といつて結論らしきことを語る、というのなんだか説得力がない。

関東南部を襲った台風に「大型特別警報」の出た頃だった。「周囲の状況を確認し、避難場所までの移動が危険な場合には近くの頑丈な建物に移動したり、外に出るのがすでに危険な場合は建物の二階以上で崖や斜面と反対側の部屋に移動するなど、少しでも命が助かる可能性が高い行動をとるよう」気象

## 渡辺利夫 (拓殖大学学事顧問)

一九三九年、山梨県生まれ。七〇年、慶應義塾大学大学院経済学研究科博士課程修了。経済学博士。筑波大学・東京工業大学教授などを歴任。拓殖大学国際開発学部学部長、学長、総長などを経て、二〇一五年十二月より現職。

庁が呼びかけているという、実にリアルなNHKのニュースである。

実はこの引用、いまウェブを開いているのだが、十月十日の二十時二十八分の「大型特別警報」についてのニュースの最後である。三、四分はつづいたであろうか。そこにいたるまでさまざま映像を背景に、大変だ大変だ、を繰り返して最後にこういのである。重大な情報だというのであれば、まずはこの引用文の警報から入って、そのあとで理由についてあれやこれやを述べればいいと思う。

ついでだが、気になって嫌な後味が残る日本語——といっても年中のことだが——の用語法がある。私はなぜか「行なう」という動詞形を使わない。例えば、演説を行なう、検査を行なう、といったふうに表現されるが、演説する、検査するでなぜいけないのか。その用語表現を強調したいのか、「より一層との」や「更なる」などがつけ加わる。昔の左翼がよく用いていた物言いだが、どうも、辟易（ひきえき）という漢字が私の頭の中には浮かんでくる。